

生命倫理と人間性の教育のための臨床人間学の確立

(0 9 4 9 0 0 0 3)

平成 9 年度 平成 1 1 年度科学研究費補助金

(基盤研究 B2) 研究成果報告書

平成 1 2 年 3 月

研究代表者 庄司進一

(筑波大学臨床医学系)

目次

| | |
|---------------------------------------|----|
| はしがき | 1 |
| 研究組織 | 1 |
| 研究経費 | 1 |
| 研究発表 | |
| 学会誌等 | 2 |
| 口頭発表 | 3 |
| 出版物 | 6 |
| 研究成果 | 7 |
| 私の授業実践 『筑波大学FDハンドブック』 | 8 |
| 平成11年度総合科目「臨床人間学」シラバス | |
| | 25 |
| 医療と教育 臨床人間学の提言 『筑波フォーラム』 | |
| | 33 |
| わたしの講義—総合科目「臨床人間学」 『筑波フォーラム』 | |
| | 38 |
| 総合科目「臨床人間学」の提言 筑波大学教養教育における試み 『生命の教育』 | 42 |
| 死を教育する—臨床人間学の実際 AERA MOOK | |
| 『死生学がわかる』 | 49 |

は し が き

臨床人間学は、1)少人数討論と全体討論、2)生老病死などに関する判断を通して具体的に人間を考える、3)自分の問題として考え始める、4)倫理的判断のみならず人生・死などの意義や生きがいなども追求する、を特徴とする新しい人間性教育の方法である。対象として、医学生、看護学生、一般大学生、大学院生、看護婦、ターミナルケア専門家、一般社会人に実践した。これらの実践を通して、この教育の方法が確立し、内容が精選されてきた。本研究の概要を報告する。

研究組織

研究代表者 庄司進一（筑波大学臨床医学系）

研究分担者 紙屋克子（筑波大学社会医学系）

研究経費

平成 9年度 2、000千円

平成 10年度 1、300千円

平成 11年度 1、300千円

計 4、600千円